

授業科目 身体障害作業療法学演習Ⅰ

【担当教員名】 鈴 木 誠		対象学年	3	対象学科	作業
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 脳血管障害や頭部外傷に代表される脳疾患および脊髄損傷などの脊髄疾患に対して作業療法を実施するために、その病態を理解した上で、作業療法の目的、治療戦略やその実際の方法を学習し、さらに演習によって技術を身につける。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. さまざまな疾患の病態と臨床経過を述べることができる 2. 脳血管障害に対する作業療法アプローチの目的について列記することができる 3. 頭部外傷や脳腫瘍に対する作業療法アプローチの目的について列記することができる 4. 脊髄損傷における作業療法アプローチの目的について列記することができる 5. 脳血管障害に対する作業療法の実際を説明することができる 6. 脊髄損傷に対する作業療法の実際を説明することができる					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	イントロダクション			1	講義・演習
2	脳血管障害の病態とその臨床経過 その1 片麻痺とその予後			1, 2	講義・演習
3	脳血管障害の病態とその臨床経過 その2 その他合併症状			1, 2	講義・演習
4	頭部外傷や脳腫瘍の病態とその臨床経過			1, 3	講義・演習
5	脳疾患に対する作業療法の実際 その1 基本動作			2, 5	講義・演習
6	脳疾患に対する作業療法の実際 その2 麻痺側上肢			2, 5	講義・演習
7	脳疾患に対する作業療法の実際 その3 感覚障害			2, 5	講義・演習
8	脳疾患に対する作業療法の実際 その4 移動手段			2, 5	講義・演習
9	脳疾患に対する作業療法の実際 その5 嚥下障害、高次脳機能障害			2, 5	講義・演習
10	脳疾患に対する作業療法の実際 その6 ADL			2, 5	講義・演習
11	脊髄損傷の病態とその臨床経過 その1 対麻痺とその予後			1, 4	講義・演習
12	脊髄損傷の病態とその臨床経過 その2 その他合併症			1, 4	講義・演習
13	脊髄損傷に対する作業療法の実際 その1 上肢機能			4, 6	講義・演習
14	脊髄損傷に対する作業療法の実際 その2 ADL			4, 6	講義・演習
15	まとめ			1～6	講義・演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		身体機能作業療法学	岩崎テル子編	医学書院	2009
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 出席と定期試験の結果を総合的に判断する			【履修上の留意点】		